

契約変更理由書

神戸市

業 務 名	ポートアイランド船だまり整備工事（その１）
<p>工事概要 （設計変更）</p> <p>当初 グラブ床掘 11,109m³、海上地盤改良 1 式、基礎捨石工 4,239m³、 方塊ブロック運搬据付 284 個、根固ブロック運搬据付 120 個、上部工打設 975m³、 先行掘削（試掘含む）116 本、鋼管杭打設 80 本、電気防食 1 式、栈橋上部工 1 式、 撤去工 1 式、仮設工 1 式、潜水探査 1 式、土質調査 1 式、水質調査 1 式</p> <p>変更 グラブ床掘 11,108m³、海上地盤改良 1 式、基礎捨石工 4,238m³、 方塊ブロック運搬据付 284 個、根固ブロック運搬据付 120 個、上部工打設 975m³、 先行掘削（試掘含む）119 本、鋼管杭打設 80 本、電気防食 1 式、栈橋上部工 1 式、 撤去工 1 式、仮設工 1 式、潜水探査 1 式、土質調査 1 式、水質調査 1 式</p> <p>（工期延長）</p> <p>当初 令和 6 年 12 月 12 日 ～ 令和 9 年 2 月 28 日</p> <p>変更 令和 6 年 12 月 12 日 ～ 令和 10 年 1 月 31 日（+337 日間）</p>	
<p>契約変更の理由 （設計変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鋼管杭打設箇所について、試掘を行った結果当初想定していなかった支障箇所が確認されたため、先行掘削による支障物除去の数量変更を行う。 ● 鋼杭施工完了後に支持力確認を行うため、試験費用を計上する。 ● 先行掘削完了から鋼杭打設開始まで施工期間が空くが、当該期間の船舶拘束が困難なため、基地港（福良港）までの往復路の回航費を計上する。 あわせて、クレーン付台船については、本工事完了後は別工事で引継ぐものとして往路のみの回航費を計上していたが、別工事との期間が空くことから基地港（福良港）へ帰港することとなったため、復路の回航費を計上する。 ● R7.4.23 に開催された請負審査会において、地中障害物により深層混合処理機刃先の回転翼が破損し、深層混合処理杭の貫入不能箇所が確認されたため、追加ボーリング調査の実施について、審査・了承され、追加ボーリングを実施し、地層構成の確認を行った。 追加ボーリング調査の結果、海底～K.P.-15.0m 付近まで捨石層やレキ層が存在すると判明した。加えて、K.P.-15.0m 以深に粘土層が 6.0m 程度存在することも確認できた。 上記を踏まえ、工法の再検討を行い、深層混合処理杭の貫入不能箇所については、障害層の貫入能力が高い、高圧噴射攪拌工法へ変更を行う。 合わせて追加ボーリングの結果から地層条件を再設定のうえ、防波堤の安定計算を実施し、改良範囲の見直しを行う。 ● 第 1 回変更にて変更した鋼管杭の仕様及び第 2 回変更にて変更した栈橋上部工の仕様にあわせて、電気防食の設計見直しを行った結果、電気防食の規格が変更となったため、電気防食工の規格変更を行う。 	

- 栈橋上部工において、設計照査の結果、梁製作用 H 鋼固定架台・現場仮設足場については、製作及び据付時の仮設工として施工上必要であることから、協議のうえ追加する。ピット部蓋設置については、インフラ検討の結果、ピット部に電線を管路なしで配線することとなったため、雨水の流入を防ぐ必要が生じたことから、蓋設置を追加する。継手及び溶接等については、設計照査の結果、数量に差異が生じたため、数量を変更する。

- その他、数量、仮設工、共通仮設費などの軽微な変更を行う。

（工期延長）

- 深層混合処理杭の貫入不能箇所の工法変更にて採用する高圧噴射攪拌工法は、障害層に貫入する際ハンマーにて石材を叩きながら貫入するため、作業工程が増加し、施工に時間を有することに加え、深層混合処理杭より 1 本あたりの改良面積が小さくなり施工本数も増加するため、337 日間の工期延期を要する。